

アガペ・ハウス・リューベック

ガルベ・フルーデリケ（ドイツで2番目のベビーボックス開設者）

アガペ・ハウス・リューベックは、1995年以来、救済を必要とする母親とその子供に支援を提供している施設です。

2000年ハンブルグにおいてゴミ袋の中から赤ちゃんの死体が発見された記事が、ある学会誌に掲載されました。解剖の所見によると、当該の赤ちゃんの手足ともに拘束されていたそうです。その後ろに、ハンブルグで設置されたベビーボックスについて初めて見た記事が続きました。暫くしたら、死亡した赤ちゃんがリューベックで発見されました。このようなことはあってはならない、起きてはいけないことだと感じました。

フレディリック・ガルベ氏は、その後ドイツで2番目のベビーボックスをリューベックに開設しました。2003年8月、最初の赤ちゃんがその新たに開設したベビーボックスに置かれました。あの時以来、20名の新生児と1組の兄弟が、リューベックのベビーボックスにやって来ました。

私たちは「Findelkinder sind Glückskinder!（捨て子は幸運な子供だ）」と信じています。赤ちゃんを長く待ち望む家族は、幸福な養子縁組家族になります。また、ガルベ氏は、敬虔な中絶反対者です。彼女は、すべての子供が生きる権利を有すると信じています。人間の命を救うために、ガルベ氏はベビーボックスの利用、匿名出産と内密出産の組み合わせを支持しています。

一方で現代社会は徐々に無関心となり、母親は家族あるいは友人からの子育て支援をほぼ受けられない結果となってきています。トルコのようなイスラム諸国では、皆が助け合う大規模家族がまだ見受けられます。しかしながらドイツにおいては、多くの乖離と孤独が見られます。これが現代ドイツにおいて出産する母親の窮状です。

また、言語を通じての治癒も行っています。赤ちゃんは話すことで自分の物語を語っているので、聞き入れることが大切に思っています。これは特にトラウマにかかってしまった乳幼児への治療として有効です。